



24

伝統文化を受け継ぐ
おくのほそ道

ねらい

- ① 当時の状況や作者の思いを捉えよう。
構成や表現の特徴と、その効果について考えよう。

ウォーミングアップ



読解の道しるべ
松尾芭蕉（一六四四年～一六九四年）

本名松尾宗房、芭蕉は俳号。伊賀の国上野（現在の三重県上野市）に生まれ、国学者の北村季吟に師事して俳諧を学ぶ。後に江戸に出て、俳人としての地位と名声を得るが、当時の俳諧になじめず、蕉風と呼ばれる独自の作風を確立した。全国各地を旅し、「野ざらし紀行」、「笈の小文」、「更科紀行」、「おくのほそ道」などの紀行文を著した。

「おくのほそ道」

元禄二（一六八九）年旧暦三月、門人曾良を伴って江戸の深川を出発、北関東・東北・北陸地方の名所旧跡を巡って、九月、大垣（岐阜県）に至るまでの旅路を、後日、虚構も交えて書き記したものの。

文章の特徴

○文体：漢文調の言い回し

↓和漢混交文（和文と漢文の両方の要素が交じった文体）

○表現技法

・対句：同じ文法構造で、内容的に対になるものを並べる。

月日は百代の過客にして

行き交ふ年もまた旅人なり

そぞろ神のものにつきて心を狂はせ

道祖神の招きにあひて取るもの手につかず

「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

① 松尾芭蕉は、俳諧を学んだ後、蕉風と呼ばれる独自の作風を確立した俳人であり、全国各地を旅して多くの [] を著した。

② 「おくのほそ道」は、門人の [] を伴って江戸を出発し、北関東・東北・北陸地方を巡る旅路を、虚構を交えて書き記したものである。 [] の言い回しと [] 的な表現が特徴である。

▼漢字・語句を確認しよう。

1 線の読み仮名を書きなさい。

□① 月日は百代の過客。

□② お経を読む。

□③ 文章を書き著す。

2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

□① 古い木がクちる。

□② ハイカイを学ぶ。

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次のA～Dの俳句の中から、I季語を書き抜きなさい。また、IIその季節を漢字一字で書きなさい。

A	古池や蛙飛びこむ水のおと	☐ I		☐ II
B	あらたふと青葉若葉の日の光	☐ I		☐ II
C	閑かさや岩にしみ入る蟬の声	☐ I		☐ II
D	荒海や佐渡に横たふ天の河	☐ I		☐ II

(2) 次の——線部の現代語訳として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- ① かねて耳驚かしたる二堂開帳す。
ア 以前から珍しいものだった
イ 以前からすばらしいと話に聞いていた
ウ 昔は評判を呼んでいた
エ 昔は驚かされたものだった
- ② しばらく千歳の記念とはなれり。
ア 千年後には記憶から消えているだろう
イ 千年後には記念すべきものになるだろう
ウ 千年もの時間が過ぎたことを証明した
エ 千年もの昔をしのぶ記念となった
- ③ 義臣すぐつてこの城に籠もり、功名一時の叢となる。
ア 忠義の臣たちをえりすぐって
イ 忠義の臣たちをすぐに呼んで
ウ 義理の親族をえりすぐって
エ 義理の親族をすぐに呼んで

(3) 次の語句を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

- ① 迎ふる ☐② いづれ
- ③ 誘はれ ☐④ 漂泊
- ⑤ 思ひ ☐⑥ 功名

(4) 次の古語の意味を答えなさい。

- ① 古人 ☐② 予
- ③ やや ☐④ 破屋
- ⑤ 栄耀 ☐
- ⑥ 一睡のうち ☐

(5) 次のA・Bの文について、後の①・②に答えなさい。

- A 舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる
- B 春立てる霞の空に、白河の関越えんと
- ① A・Bの文に用いられている表現技法を何といいますか。次のうちから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 倒置 イ 掛詞
- ウ 対句 エ 反復
- ② ——線部「春立てる霞の空」の「立てる」は、「春が立つ（立春）」という意味の他に、もう一つどんな意味がありますか。五字以内で書きなさい。

--	--	--	--

練習問題 1

教科書
P. 138
S
P. 139

1 次の古文と現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

- (5) 「草の戸も……」の俳句について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。
- Ⅰ 俳句の中から、A季語を書き抜きなさい。また、Bその季節を漢字一字で書きなさい。

□Ⅱ この俳句に込められている心情として最も適切なものを次のうちから選
び、記号で答えなさい。

季節が巡^{めぐ}って、春を迎えた喜び。

イ 住まいが静かな雰囲気ふんいきに変わった驚きおどろ。

ウ 常に移り変わる世の中に対する感慨^{かんがい}。

工 住み慣れた家が人手に渡ってしまった寂しさ。

□(6) この文章の冒頭「月日は……死せるあり。」の部分から読み取れる作者の人生観について述べたものとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人生とは案外つまらないものである。

イ 人生とは流されながら生きることである。

ウ 人生とは旅のようなものである。

工 人生とははかない夢のようなものである。
()

(7) この文章に書かれている作者の心情（願望）について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□ I この文章に表れている作者の思いを十五字以内の現代語で書きなさい。

[illegible]

□(1) — 線①「月日は百代の過客にして」と対^{つひ}になっている部分を、古文の中から書き抜きなさい。

(2) — 線②「舟の上に……迎ふる者」とありますが、Ⅰ「舟の上に生涯を浮かべ(る者)」、Ⅱ「馬の口とらへて老いを迎ふる者」とは、どんな職業の人ですか。現代語訳の中から書き抜きなさい。

□Ⅰ

□Ⅱ

□(3) — 線③「江上の破屋」とは、何を表したのですか。古文の中から漢字一字で書き抜きなさい。

□(4) — 線④「白河の関越えん」の部分を現代語訳しなさい。

□ⅡⅠの思いが募^つって、じっとしていられない様子が最もよく表現されている部分を古文の中から六十三字で探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

(8) 作者が旅を決意したことについて、次のⅠ～Ⅲに答えなさい。

□Ⅰ 作者は旅を決意するにあたって、ある覚悟^{かくご}をしていたと考えられます。それはどんな覚悟ですか。

□ⅡⅠの覚悟は、作者のどのような行動に表れていますか。古文の中から九字で書き抜きなさい。

□Ⅲ 作者が最初に目指そうとしたのはどこですか。地名を書きなさい。

(9) この文章の特色を述べたものとして適切なものを次のうちから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 漢語の多用により歯切れのよさが感じられる。
 イ 文意を強める倒置法^{とうち}が多用されている。
 ウ リズムを生む対句が多用されている。
 エ 分かりやすく綿密な報告文のような文章になっている。
 オ 感傷を主体とした叙情的な文章になっている。

□() □() □()

定期テスト対策

教科書 P 138 ~ 147

実施時間のめやす ↓ 20 分

得点

／ 100 点

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

(1) 線①「三代の栄耀一睡のうちにして」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□Ⅰ これはどういうことをいったものですか。三十字以内で書きなさい。

(10 点)

Ⅱ 藤原三代の栄華の跡の現状や規模について描写している一文を——線①を含む文以外で二つ探し、その初めの五字を書き抜きなさい。(5 点×2)

□・	□・

□(2) 線②「功名一時の叢となる」の意味として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(6 点)

- ア 功名を立てたのは一時のこと、今はただの草むらとなってしまった。
- イ 一時の功名は、まさにこの一面の草むらにおいて立てられたものである。
- ウ 今は一面の草むらであるが、ここで立てた功名は長く語り継がれている。
- エ 功名はほんの一时的なものであるが、草むらとなってもこの地は永遠に残っている。

()

(3) 線③「時の移るまで涙を落としはべりぬ」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。(10点)

Ⅰ 「ぬ」を完了の意味と捉えて、この部分を現代語訳しなさい。(6点)

Ⅱ 涙を落とした理由として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(6点)

- ア 念願の地をようやく訪れることができて、とてもうれしかったから。
イ 昔の英雄たちの眠る場所がひどく荒れ果てていて、悲しかったから。
ウ 自然のもつ猛威に対し、人間の無力さを感じて情けなく思ったから。
エ 自然が永遠であるのに対し、人間の営みがはかないことを感じてむなしくなったから。

(4) A「夏草や……」・B「卯の花に……」の俳句について、次のⅠ～Ⅲに答えなさい。(2点×4)

Ⅰ A・Bの俳句の季語を書き抜きなさい。また、その季節を漢字一字で書きなさい。

A □ 季語	□ 季節

B □ 季語	□ 季節

Ⅱ Aの俳句に詠まれている情景や心情を直接示している一文を文中から探し、その初めの五字を書き抜きなさい。(5点)

Ⅲ Bの俳句で、作者は「卯の花」に兼房のどんな姿を思い浮かべているのですか。(10点)

(5) 長年の風雪によって荒れ果てた堂の様子が描かれている部分を文中から二十五字で探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。(完答5点)

(6) Cの俳句について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

Ⅰ この俳句の季語を書き抜きなさい。また、その季節を漢字一字で書きなさい。(2点×2)

□ 季語	□ 季節

Ⅱ 「降り残してや光堂」に込められた作者の感動について述べた次の文の□ a・bに入る言葉を、それぞれ三字以内で書きなさい。(5点×2)

・全てが減り去った中で、僅かに残った□ a だけが今なお□ b 光り輝いていることに感動している。

□ a	□ b

(7) この文章全体に表れている作者の心情として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(6点)

- ア 焦燥感 イ 孤独感
ウ 無常観 エ 閉塞感

2 次の——線の読み仮名を平仮名で、片仮名を漢字で書きなさい。(2点×5)

- ① 体験を著す。 ② 刺客を送り込む。
③ フキユウの名作。 ④ キヨウを読む。
⑤ クチ果てる。